

平成29年2月7日

保護者様

田村市立都路中学校長 田中 淳一

平成29年度 学校評価結果のお知らせ

立春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校教育活動へのご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、学校評価の集計結果概要についてお知らせいたします。皆様からの貴重なご意見を今後の学校経営に生かしてまいりますので、よろしく願いいたします。

なお、学校評価アンケート集計結果の詳細は、ホームページに掲載しましたのでご覧ください。

1 保護者アンケートから課題と思われる項目

(「A当てはまる」・「Bやや当てはまる」と答えた割合が80%に満たなかった質問項目)

A・Bの割合(%)

番号	項目	前期	後期	増減
4	子どもは、授業の内容がわかり、学習内容を理解している。	75	72	-3
5	子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	74	79	+5
9	子どもは、3点固定(起床時間・家庭学習開始時間・就寝時間)に取り組んでいる。	69	59	-10

○ 「教育活動による生徒の様子」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「子どもは、楽しく学校へ通っている」(後期91%)、「子どもは、よい友人関係ができています」(後期93%)、「子どもは、思いやりの心が育ってきています」(後期94%)である。

○ 「教職員」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「教職員は、分かりやすい授業のために授業の進め方を工夫している」(後期95%)、「教職員は、子どもを理解することに努め、一人一人を大切にされた支援をしている」(後期93%)、「教職員は、子どものことについて相談に親身に応じてくれる」(後期95%)である。

○ 「学校経営」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「学校は、保護者や地域の願いに応える教育を行っている」(後期95%)、「学校は、いじめのない学校づくりに努めている」(後期95%)、「学校は、地域の素材や人材を教育活動に活用している」(後期98%)、「学校の施設や環境は、子どもが安全に安心して学習できるように整備されている」(後期96%)、「学校は、保護者や地域に学校の取り組みや子どもの様子を分かりやすく伝えている」(後期94%)である。

○ 「PTA」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「PTA活動は、学校と協力して行われている」(後期98%)、「子どもの様子に変化があったり、情報や要望などは、その都度学校に知らせている」(後期90%)である。

● 前期と同様に、学校での学習に加えて、家庭での学習(宿題+自主学習)を充実させていくことが課題となっている。今後学校では、授業改善はもとより、朝や昼の10~15分間を使った学習に関する多様な取組、放課後の学習会などを実施する。また、家庭学習の充実にあたっては、学校での取組(学習内容・方法の指導)を核としながらも、3点固定などの「心の支え」「環境づくり」「習慣づくり」の役割を家庭・地域が果たすことが必要である。

● 東日本大震災及び原発事故を経験した本県だからこそ、どんな困難な問題に対しても、強い志と使命感を持って挑戦し続ける「主体性」、多様な他者と共に力を合わせる「協働性」、新しい生き方・産業・社会をつくりだしていく「創造性」を子どもたちに育む必要がある。そのような資質・能力を育むために、学校を核とした地域社会全体で協働型の教育(キャリア教育、道徳教育、部活動)を推進したい。(裏面に続く)

2 生徒アンケートから課題と思われる項目

(「A当てはまる」・「Bやや当てはまる」と答えた割合が80%に満たなかった質問項目)

A・Bの割合(%)

番号	項目	前期	後期	増減
9	3点固定(起床時間・家庭学習開始時間・就寝時間)に取り組んでいる。	74	72	-2

- 「教育活動による生徒の様子」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「楽しく学校へ通っている」(後期 96%)、「将来の夢や目標(志)をもっている」(後期 95%)、「何事にも積極的に取り組んでいる」(後期 92%)、「家庭学習の習慣が身に付いている」(後期 90%)、「よい友人関係ができています」(後期 95%)、「『田村っ子ルール 10』を守って生活している」(後期 93%)、「思いやりの心が育ってきている」(後期 95%)、「目標をもって部活動に取り組んでいる」(後期 91%) である。
- 「教職員」において、「A」・「B」の割合が高いのは、「先生は、分かりやすい授業のために授業の進め方を工夫している」(後期 97%)、「先生は、生徒を理解することに努め、一人一人を大切にされた支援をしている」(後期 93%)、「先生は、相談に親身にに応じてくれる」(後期 96%) である。
- 保護者アンケートと同様に生徒アンケートからも、家庭での学習を充実させていくことが課題であることがわかる。現代の子どもたちは、ゲームやスマホなど誘惑の多い環境の中で、家庭学習に取り組んでいくことになる。だからこそ、「自己マネジメント力」が必要になる。学校、家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、子どもたちに家庭学習を通して「自己マネジメント力」を育むことが大切である。

※ 「自己マネジメント力」とは、「R-PDCAサイクルを通して、自分で学習や生活を改善する力」のこと。RはResearch(自分の課題を客観的にとらえる)、PはPlan(自分の課題にそった目標や計画を立てる)、DはDo(計画にそって主体的に学習する)、CはCheck(学習の結果や取組を振り返り、確かめる)、AはAction(学習の内容・方法を見直し、修正する)。